

今、何の病気が流行しているか！

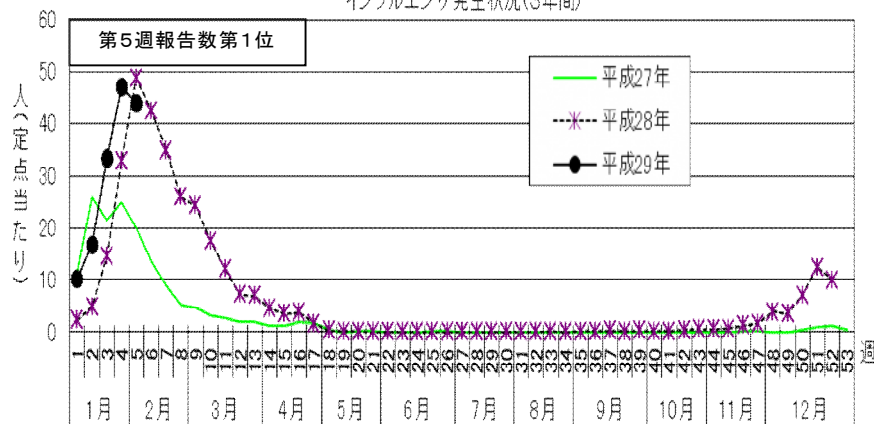
【感染症発生動向調査事業から】

平成29年1月30日（月）～平成29年2月5日（日）〔平成29年第5週〕の感染症発生状況

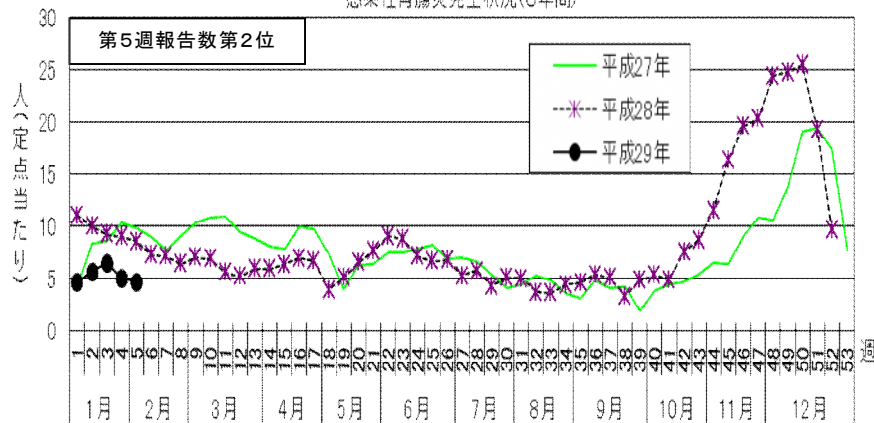
第5週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1)インフルエンザ 2)感染性胃腸炎 3)流行性角結膜炎でした。
 インフルエンザの定点当たり患者報告数は43.92人と前週（46.88人）から横ばいで、例年より高いレベルで推移しています。
 感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は4.67人と前週（5.00人）から横ばいで、例年より低いレベルで推移しています。
 流行性角結膜炎の定点当たり患者報告数は2.22人と前週（1.56人）から増加し、例年よりかなり高いレベルで推移しています。



インフルエンザ発生状況(3年間)



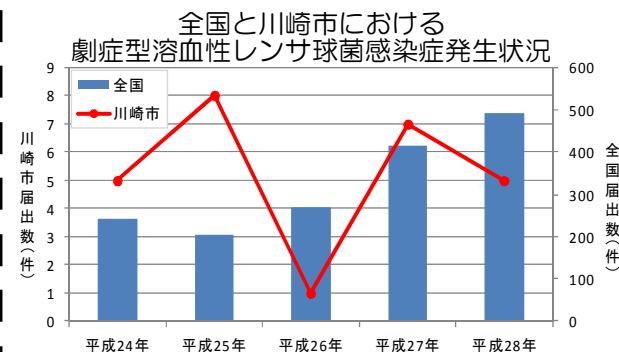
感染性胃腸炎発生状況(3年間)



知っていますか？～劇症型溶血性レンサ球菌感染症～

溶血性レンサ球菌感染症は、通常は発熱とともに咽頭炎などを引き起こし、子どもを中心に毎年流行する疾患ですが、中には急激に悪化する劇症型溶血性レンサ球菌感染症もあります。初期症状としては発熱、咽頭痛、四肢の痛み・腫れなどがみられ、発病後数十時間以内に、腫れた部分が壊死（細胞が破壊され組織が死んでしまうこと）を起こしたり、多臓器不全やショック状態から死に至ることもあります。

川崎市における届出数は、平成18年以降年間1～8件でしたが、平成29年第5週（平成29年1月30日～平成29年2月5日）までに、すでに2件の届出がありました。



劇症型溶血性レンサ球菌感染症とは？

【感染経路】

傷口などから、通常は菌の存在しない筋肉や血液などに溶血性レンサ球菌が侵入することによって感染します。

【好発年齢】

子どもから大人まで広範囲の年齢層に発症しますが、特に30歳以上の大人に多いのが特徴です。

【治療】

- 早期に治療を開始することが重要です。
- 抗菌薬治療や輸液管理などショックに対する治療を行います。
- 菌が存在する壊死組織を速やかに可能な限り広範囲に切除します。